

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
雑報 お三輪はお転婆ならず	芸談	伊原青々園	《9》団十郎	(第一次) 歌舞伎	5	明治33年8月 歌舞伎発行所
芝居覚帳(二) 丑之助の裸	芸談	冬瓜坊	《9》団十郎 お三輪(丑之助=《6》菊五郎)	(第一次) 歌舞伎	6	明治33年9月 歌舞伎発行所 ※《9》団十郎が子供芝居を指導
妹背山婦女庭訓について	研究	饗庭篁村		近松の研究		明治33年11月 春陽堂 ※「早稲田文学」(明治31・6)に初出。 ※「早稲田文学」(明治31・4)に初出。
「妹背山婦女庭訓」	合評	近松研究会 (伊原青々園・坪内逍遙・金子筑水・綱島梁川・平野柏蔭・佐藤迷羊)				
近松の研究を読み	評論	董坡老人		(第一次) 歌舞伎	11	明治34年4月 歌舞伎発行所
市村座芝居噺 〔明治35・2市村座〕	劇評	川尻清潭	お三輪・入鹿(芝翫=《5》歌右衛門)	(第一次) 歌舞伎	22	明治35年4月 歌舞伎発行所 ※御殿
中村芝翫お三輪の話	芸談	芝翫=《5》歌右衛門	川尻清潭			※明治35・2市村座
市川染五郎鱧七の型	演出	川尻清潭	染五郎=《7》幸四郎	(第一次) 歌舞伎	31	明治35年12月 歌舞伎発行所 ※明治35年11月東京座
入鹿か弟橘姫 定高と屏風	芸談	松居真玄	《9》団十郎 《5》菊五郎	団州百話		明治36年11月 秀英舎
歌舞伎座の四月興行 〔明治38・4歌舞伎座〕	劇評	眞如女史	お三輪・定高(《6》梅幸) 求女(訥升=《7》宗十郎) 橘姫(《1》吉右衛門)入鹿(《4》松助)鱧七(八百蔵=《7》中車)豆腐買(《15》羽左衛門)	(第一次) 歌舞伎	61	明治38年5月 歌舞伎発行所 ※山の段・御殿・道行
思出艸	演出	川尻清潭	お三輪(《9》団十郎)	(第一次) 歌舞伎	81	明治40年1月 歌舞伎発行所
妹背山の道行	評論	匏村		(第一次) 歌舞伎	84	明治40年4月 歌舞伎発行所
三月の劇壇 歌舞伎座 〔明治40・3歌舞伎座〕	劇評	三木竹三	お三輪(芝翫=《5》歌右衛門)鱧七(《15》羽左衛門)入鹿(高麗蔵=《7》幸四郎)			

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
南座の五月芝居 〔明治40・5南座〕	劇評	山田桂華	お三輪（《1》鴉治郎）求女 （福助＝《3》梅玉）橘姫 （《1》巖笑）	（第一次）歌舞伎	86	明治40年6月 歌舞伎発行所
役者秘伝集	演出	との字	鱧七（《5》延三郎）	（第一次）歌舞伎	94	明治41年5月 歌舞伎発行所
一役一言 お三輪 ----- 一役一言 金輪五郎	芸談	倒扇 谷人堂	女寅＝《6》門之助 ----- 団吉	演芸画報	明治41・10	演芸画報社 ※明治41・9寿座
雁治郎と梅玉 〔明治44・5新富座〕 ----- 新富座の上方俳優 〔明治44・5新富座〕 ----- 明治座の五月 〔明治44・5明治座〕 ----- 明治座の「妹背山」 〔明治44・5明治座〕	劇評	伊原青々園 ----- ほのぼ生 ----- 芹影女 ----- 川尻清潭	お三輪（《1》鴉治郎）求女 （《2》梅玉） お三輪（《1》鴉治郎） ----- 定高（《4》源之助）大判 司・鱧七（《2》段四郎）入 鹿（《2》左団次）橘姫 （《6》門之助）お三輪 （《15》羽左衛門） ----- 大判司・鱧七（《2》段四 郎）久我之助（《3》亀蔵） 雛鳥（菫若）入鹿（《2》左 団次）お三輪（《15》羽左 衛門）	（第一次）歌舞伎	132	明治44年6月 歌舞伎発行所 ※道行 ----- ※山の段・御殿 ----- ※《9》団十郎の型を中心に 評す。 ※山の段・御殿
鱧七研究 一お三輪の出るまで一	型	杉賈阿弥		演芸画報	大正4・10	演芸倶楽部
読むべき浄瑠璃 「妹背山」の舞台 ----- 妹背山の脚色 定高とお三輪 ----- 背山の大判事 心の無い人形 「妹背山」の技巧と色彩 劇談会 ----- がっかりする幕	解説 評論 ----- 評論劇評 演出芸談 ----- 衣装 演出芸談 ----- 研究 ----- 評論演出 ----- 劇評	岡本綺堂 楠山正雄 ----- せいせつ 梨花庵主人 ----- ----- 灰野庄平 小山内薫	お三輪（《5》歌右衛門） 《5》歌右衛門 ----- 《11》仁左衛門 ----- 鱧七（《15》羽左衛門）	演芸画報	大正6・4	演芸倶楽部 ----- ※大正6・3歌舞伎座 ----- ----- ※近松半二の作劇研究

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
歌舞伎座弥生狂言 一番目「妹背山婦女庭訓」二幕 〔大正6・3歌舞伎座〕	劇評	岡鬼太郎	大判事（《11》仁左衛門） 定高・お三輪（《5》歌右衛門） 雛鳥（《5》福助）久我之助・鱧七（《15》羽左衛門） 入鹿・豆腐買（《2》段四郎）	新演芸	大正6・4	玄文社
「妹背山」の恋 歌舞伎座の「妹背山」見たまま	見たまま	孔雀船	大判事（《11》仁左衛門） 定高・お三輪（《5》歌右衛門） 雛鳥（《5》福助）久我之助・鱧七（《15》羽左衛門）			※大正6・3歌舞伎座
芝居遺跡紀行 妹背山	古跡	浪花の旅人				
大判事と利休 漁師鱧七	芸談 鑑賞		《11》仁左衛門 《15》羽左衛門			
お三輪	鑑賞	安部豊	《6》菊五郎	舞台のおもかげ 市村羽左衛門		大正8年3月 好文社
漁師鱧七実は金輪五郎	鑑賞	安部豊	《1》吉右衛門	舞台のおもかげ 尾上菊五郎		大正8年5月 好文社
妹背山婦女庭訓	解説	飯塚友一郎		舞台のおもかげ 中村吉右衛門		大正8年6月 好文社
入鹿とお三輪	衣装鑑賞	安部豊	《5》歌右衛門	歌舞伎狂言 細見		大正8年9月 歌舞伎新報社
後室貞高 お三輪	鑑賞 鑑賞	安部豊	《1》鷹治郎	舞台のおもかげ 中村歌右衛門		大正8年9月 好文社
写真攻めの幹部	リポート	黒顔子		舞台のおもかげ 中村鷹治郎		大正8年12月 好文社
芝居谷評会 第十五例会 帝劇十一月狂言	合評	伊原青々園・池田大伍・小山内薫・岡村柿紅・川尻清潭・永井荷風ほか	淡海（《6》梅幸）橘姫（《1》宗之助）入鹿（《13》勘弥）鱧七（《7》幸四郎）お三輪（《7》宗十郎）	新演芸	大正8・12	玄文社 ※大正8・11帝国劇場舞台稽古
お三輪	鑑賞	安部豊	《2》延若	舞台のおもかげ 実川延若		大正11年5月 好文社
妹背山婦女庭訓 （山之段）	見たまま	寺林吉太郎	大判事（《3》多見蔵）、定高（《6》梅幸）、久我之助（《1》鷹治郎）、雛鳥（《3》雀右衛門）	演芸画報	大正12・4	演芸倶楽部 ※大正12・3中座
扇雀にすまぬ 不思議に暗合 玉造の型 自分の頸	芸談		久我之助（《1》鷹治郎） 大判事（《3》多見蔵） 雛鳥（《3》雀右衛門） 定高（《6》梅幸）			

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
大職冠鎌足と入鹿大臣	解説	飯塚友一郎		歌舞伎細見		大正15年10月 第一書房 ※「歌舞伎狂言細見」(大正 8・9歌舞伎新報社)の改訂再 編版
「妹背山婦女庭訓」	研究	坪内逍遙	逍遙選集 第十巻			昭和2年1月 春陽堂 昭和52年9月、逍遙協会より 復刻
妹背山と双蝶々 〔昭和2・6新橋演舞場〕	芸談	杉芳三	淡海(《6》菊五郎)橋姫 (《3》時蔵)鱧七(《1》 吉右衛門)お三輪(《7》宗 十郎)豆腐買(《7》三津五 郎)	演芸画報	昭和2・7	演芸画報社
二座の「妹背山の御殿」 一、菊五郎一座 二、吉右衛門宗十郎一座 〔大正15・10邦楽座、昭和2・6新橋演舞場〕	劇評	三宅周太郎	お三輪(《6》菊五郎、 《7》宗十郎)鱧七(《6》 友右衛門、《1》吉右衛門)	演劇評話		昭和3年3月 新潮社
芝居見たまま 一番目妹背山婦女庭訓 吉野川の場	見たまま	雄之助	大判事(《7》中車)定高 (《6》梅幸)久我之助 (《15》羽左衛門)雛鳥 (《7》宗十郎)	(第二次)歌舞伎	昭和5・3	宝文館
妹背山の三段目 芝居名所案内(十六) 吉野川義理の柵	鑑賞 古跡	高安月郊 谷口梨花				
「山の段」の上演 〔昭和5・3歌舞伎座〕	劇評演出	三宅周太郎	大判事(《11》仁左衛 門)・大判事(《7》中車) 定高(《6》梅幸) 雛鳥(《7》宗十郎)	演芸画報	昭和5・4	演芸画報社 ※《11》仁左衛門は大正6・3 歌舞伎座 ※昭和5.3歌舞伎座
記録的な雛鳥 座ったまま三十四分 二ヶ所直した台詞	芸談		久我之助(《15》羽左衛 門) 大判事(《7》中車) 雛鳥(《6》梅幸)			
お雛様の首 妹背山見物 〔昭和5・3歌舞伎座〕	劇評	鬼太郎	大判事(《7》中車)定高 (《6》梅幸)久我之助 (《15》羽左衛門)雛鳥 (《7》宗十郎)			
妹背山「山の段」の味	鑑賞	三島霜川				
魁玉夜話(五) (妹背山のお三輪)	芸談	安部豊	《5》歌右衛門	演芸画報	昭和9・7	演芸画報社 ※「魁玉夜話歌舞伎の型」 (昭和25・3文谷書房)に所 収
歌舞伎座の妹背山御殿 歌舞伎座の妹背山	鑑賞	岡鬼太郎		鬼言冗語		昭和10・4 ※山の段

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
魁玉夜話（十六） 「妹背山婦女庭訓」の後室貞高	芸談	安部豊	《5》歌右衛門	演芸画報	昭和10・9	演芸画報社 ※「魁玉夜話歌舞伎の型」 （昭和25・3文谷書房）に所収
歌舞伎座に出るまで	芸談	伊原青々園	《5》歌右衛門	歌右衛門自伝		昭和10年11月 秋豊園出版部
続々魁玉夜話（十六） 妹背山婦女庭訓—お三輪の型	芸談	安部豊	《5》歌右衛門	演芸画報	昭和15・11	演芸画報 ※「歌舞伎の型」（昭和25・3文谷書房）に所収
「妹背山」の山の段の惜辞の一考察 「妹背山婦女庭訓」及び「本朝二十四孝」の 劇的性格 末期の代表作「妹背山婦女庭訓」の構成形式	研究	中村吉蔵		日本戯曲技巧論		昭和17年7月 中央公論社
十三鐘絹懸柳妹背山婦女庭訓	解説	黒木勘蔵		近松以後		昭和17年9月 大東出版社
妹背山の「御殿」研究 妹背山婦女庭訓「山の段」研究	研究			歌舞伎研究		昭和17年12月 拓南社
合理の演技	芸談	《7》中車	お三輪・入鹿（《9》団十郎）	中車芸話		昭和18年9月 築地書店
近松半二	研究	園田民雄		浄瑠璃作者の研究		昭和19年2月 東京堂
東京都劇場だより 〔昭和22・10有楽座〕	劇評	戸部銀作	お三輪（《7》梅幸）鱧七（《2》松緑）	幕間	昭和22・11	和敬書店
鴈治郎熱演、我当好演 〔昭和23・6中座〕	劇評	井上甚之助	お三輪（扇雀＝《4》藤十郎）求女（《2》鴈治郎）	幕間	昭和23・7	和敬書店 ※道行
恋愛一途の女 純情可憐な娘たち	随筆	高岡宣之		歌舞伎の女性		昭和24年1月 新府書房
「春琴」と「熊谷」 〔昭和24・10三越劇場〕	劇評	大木豊	お三輪（芦燕＝《14》仁左衛門）	幕間	昭和24・11	和敬書店 ※道行
宇野信夫興行 〔昭和25・2新橋演舞場〕	劇評	大木豊	鱧七（猿之助＝《1》猿翁） お三輪（《7》梅幸）	幕間	昭和25・3	和敬書店
私の芸談 片山さんの型 妹背山三段目	芸談		《7》梅幸			※昭和25・2新橋演舞場
	劇評	武智鉄二	久我之助（《3》時蔵）定高（《3》梅玉）大判事（《1》吉右衛門）	蜀犬抄		昭和25年4月 和敬書店 ※昭和16・9歌舞伎座
痴呆たれ歌舞伎 〔昭和25・5文楽座〕	劇評	山口廣一	求女（菟蔵＝《8》雷蔵）	幕間	昭和25・6	和敬書店 ※道行

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
三越甲子園歌舞伎 〔昭和25・8三越劇場〕	劇評	戸部銀作	お三輪（《2》橋蔵、梅枝＝ 《4》時蔵、源平＝《9》宗 十郎）求女（《2》橋蔵、源 平＝《9》宗十郎）橘姫（松 蔦＝《7》門之助、梅枝＝ 《4》時蔵）鑿七、入鹿（慶 三＝《10》高麗蔵、光伸＝ 《9》三津五郎）	幕間	昭和25・9	和敬書店 ※杉酒屋・御殿
南座の花形歌舞伎 〔昭和25・8南座〕		山本修二	お三輪（鶴之助＝《5》富十 郎）求女（莚蔵＝《8》雷 蔵）橘姫（秀公＝《5》我 当）			※道行
市村座時代再現の夢 〔昭和25・7御園座〕		木村菊太郎	鑿七（幸四郎＝《1》白鸚） お三輪（芝翫＝《6》歌右衛 門）求女（訥升＝《8》宗十 郎）橘姫（源平＝《9》宗十 郎）			※御殿
紙上舞台 妹背山婦女庭訓	鑑賞	戸部銀作		幕間	昭和25・10	和敬書店
三津五郎芸談 一八	芸談	井上甚之助	《7》三津五郎	三津五郎芸談		昭和25年12月 和敬書店 ※鑿七（《5》歌右衛門）入 鹿・お三輪（《9》団十郎）
両花道の芝居を中心に 〔昭和25・11東京劇場〕	劇評	戸板康二	大判事（《1》吉右衛門）定 高（《3》時蔵）久我之助 （《17》勘三郎）雛鳥（芝翫＝ 《6》歌右衛門）	幕間	昭和25・12	和敬書店
山の段合評会 〔昭和25・11東京劇場〕	劇評	渥美清太郎・ 浜村米蔵・戸 板康二・安藤 鶴夫・三宅三 郎・利倉幸一	大判事（《1》吉右衛門）定 高（《3》時蔵）久我之助 （《17》勘三郎）雛鳥（芝翫＝ 《6》歌右衛門）	演劇界	昭和25・12	演劇新社
「妹背山婦女庭訓」山の段”考證抄（吉野 川）	鑑賞	川口子太郎		花道	16	昭和25年12月 梨の花会
幕間随想 顔見世のことども	芸談		《17》勘三郎	幕間	昭和26・1	和敬書店 ※お三輪
幕間随想 初めての井上流	芸談		《2》又五郎	幕間	昭和26・3	和敬書店
「河庄」と「酒屋」 〔昭和26・2明治座〕	劇評	戸部銀作	お三輪（友右衛門＝《4》雀 右衛門）求女（《5》田之 助）橘姫（《2》又五郎）			※道行
仁左衛門誕生 〔昭和26・3大阪歌舞伎座〕	劇評	井上甚之助	大判事（《3》寿三郎）定高 （《3》時蔵）久我之助 （《2》鴈治郎）雛鳥 （《4》富十郎）	幕間	昭和26・4	和敬書店

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
大食漢歌舞伎座 〔昭和26・4歌舞伎座〕	劇評	三宅周太郎	お三輪（《6》歌右衛門）求女（《16》羽左衛門）橘姫（福助＝《7》芝翫）入鹿（海老蔵＝《11》団十郎）鱧七（《1》吉右衛門）	幕間	昭和26・5	和敬書店 ※御殿
「妹背山」の大判事のこと	芸談	《1》吉右衛門		吉右衛門自伝		昭和26年7月 啓明社
南座八月興行を観て 〔昭和26・8南座〕	劇評	石田一良	お三輪（扇雀＝《4》藤十郎）求女（《2》鷹治郎）	幕間	昭和26・9	和敬書店 ※御殿
仁左衛門好調 〔昭和26・10御園座〕	劇評	木村菊太郎	大判事（《3》寿三郎）定高（《2》鷹治郎）	幕間	昭和26・11	和敬書店 ※山の段
菊五郎劇団あれこれ 〔昭和28・4御園座〕	劇評	大鏈時生	お三輪（《7》梅幸）求女（《3》左団次）入鹿（彦三郎＝《17》羽左衛門）鱧七（海老蔵＝《11》団十郎）	幕間	昭和28・5	和敬書店 ※御殿
妹背山婦女庭訓	鑑賞	三宅三郎		アルスグラフ第12集歌舞伎名作の鑑賞一時代もの篇一		昭和28年12月 株式会社アルス
幕間随想 「妹背山」の雛鳥ほか	芸談		扇雀＝《4》藤十郎	幕間	昭和29・1	和敬書店 ※昭和28・12京都南座
顔見世好調 〔昭和28・12南座〕	劇評	井上甚之助	大判事（《3》寿三郎）久我之助（《2》鷹治郎）定高（《3》時蔵）雛鳥（扇雀＝《4》藤十郎）			
問題の芝居「高野聖」 〔昭和29・6大阪歌舞伎座〕	劇評	桂田重治	大判事（《3》寿三郎）定高（《2》時蔵）雛鳥（扇雀＝《4》藤十郎）久我之助（鶴之助＝《5》富十郎）	幕間	昭和29・7	和敬書店
幕間随想 定高と三浦之助	芸談		《2》鷹治郎			※昭和29・6大阪歌舞伎座
吉右衛門一座自重 〔昭和29・7歌舞伎〕	劇評	三宅周太郎	お三輪（訥升＝《9》宗十郎）	幕間	昭和29・8	和敬書店 ※道行
鑑賞読本 妹背山婦女庭訓	演出	渥美清太郎		演劇界	昭和29・10	演劇出版社
お三輪と「生きている小平次」 〔昭和29・9明治座〕	劇評	加賀山直三	お三輪（《7》梅幸）鱧七（《2》松緑）入鹿（彦三郎＝《17》羽左衛門）淡海（海老蔵＝《11》団十郎）豆腐買（《3》左団次）橘姫（福助＝《7》芝翫）			
意気と意欲は別 〔昭和29・9明治座〕		本山萩舟	お三輪（《7》梅幸）入鹿（彦三郎＝《17》羽左衛門）			※御殿

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
大阪での菊五郎劇団 〔昭和29・11大阪歌舞伎座〕	劇評	菱田正男	お三輪（《7》梅幸）淡海 （《3》左団次）鱧七 （《2》松緑）入鹿（《2》 九朗右衛門）豆腐買（彦三 郎＝《17》羽左衛門）	演劇界	昭和29・12	演劇出版社
「たぬき」の菊十郎 〔昭和29・11大阪歌舞伎座〕	劇評	沼艸雨	お三輪（《7》梅幸）淡海 （《3》左団次）入鹿 （《2》九朗右衛門）鱧七 （《2》松緑）	幕間	昭和29・12	和敬書店 ※御殿
幕間随想 演舞場雑話 幕間随想 久我之助と愛染 幕間随想 「妹背山」上演の意義 努力賞「妹背山」の川場 〔昭和30・9新橋演舞場〕	芸談		《3》左団次 《7》梅幸 《2》松緑	幕間	昭和30・10	和敬書店 ※昭和30・9新橋演舞場
劇評	竹越和夫					
収穫「山の段」 〔昭和30・9新橋演舞場〕	劇評	戸板康二	大判事（《2》松緑）定高 （《3》左団次）久我之助 （《7》梅幸）雛鳥（福助＝ 《7》芝翫）	演劇界	昭和30・10	演劇出版社 ※「戸板康二劇評集」（平成 3・6演劇出版社）に所収
定高 久我之助	芸談	加賀山直三	《3》左団次 《7》梅幸			※昭和30・9
幕間随想 大阪二座の駈持ち	芸談		芝雀＝《4》時蔵	幕間	昭和30・11	和敬書店 ※昭和30・11大阪歌舞伎座 ※道行
舞踊は充実 〔昭和30・10大阪歌舞伎座〕	劇評	沼艸雨	お三輪（《4》富十郎）求女 （《3》時蔵）橘女（芝雀＝ 《4》時蔵）			※道行
中座の四人 〔昭和30・10中座〕		藤井康雄	お三輪＝（芝雀＝《4》時 蔵）鱧七（《7》吉三郎）			※御殿
近松半二の技巧 一妹背山婦女庭訓における一	研究	山下洋子		国文	5	昭和31年7月 御茶ノ水大学国語国文学会
舞台鑑賞手引 妹背山婦女庭訓 三笠山御殿の場 歌舞伎座と新橋演舞場初春の三座合評 歌舞伎座の巻 〔昭和31・1歌舞伎座〕	鑑賞	加賀山直三		幕間	昭和31・2	和敬書店
劇人閑話 （その2）	芸談	《7》梅幸				※お三輪
勘・幸・歌の競演 〔昭和32・6新橋演舞場〕	劇評	戸部銀作	お三輪（《6》歌右衛門） 七（猿之助＝《1》猿翁）橘 姫（我童＝《14》仁左衛 門）	幕間	昭和32・7	和敬書店 ※御殿
幕間随想 実感と演技	芸談		幸四郎＝《1》白鸚			※昭和32・6新橋演舞場



題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
鱧七研究	演出	杉廣阿弥		舞台観察手引草		昭和32年11月 演劇出版社
名古屋の吉右衛門劇団 〔昭和32・10御園座〕	劇評	前田満穂	鱧七（幸四郎＝《1》白鸚） お三輪（《6》歌右衛門）	幕間	昭和32・11	和敬書店 ※御殿
幸歌勤が中心 〔昭和33・4歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	お三輪（友右衛門＝《4》雀 右衛門）求女（《2》又五 郎）橘姫（《10》高麗蔵）	幕間	昭和33・5	和敬書店 ※道行
幕間随想 京舞を汚す	芸談		《4》雀右衛門			※昭和33・4歌舞伎座 ※道行
団菊祭復活 〔昭和33・5歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	大判事（《2》松緑）定高 （《3》左団次）雛鳥（福助 ＝《7》芝翫）久我之助 （《7》梅幸）	幕間	昭和33・6	和敬書店 ※山の段
妹背山婦女庭訓研究	研究	服部幸雄		伝統演劇	12	昭和33年12月 伝統演劇研究会
幕間随想 官女のトンボ	芸談		幸四郎＝《1》白鸚	幕間	昭和34・1	和敬書店 ※昭和33・12歌舞伎座 ※御殿
幕間随想 クドキは一つ			《7》梅幸			
顔見世大歌舞伎 〔昭和33・12歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	お三輪（《7》梅幸）求女 （《6》歌右衛門）鱧七（幸 四郎＝《1》白鸚）			※御殿
”花梢会”の新発足	劇評	大鏈時生	お三輪（《4》菊次郎）求女 （《2》又一郎）橘姫 （《11》雛助）	幕間	昭和34・2	和敬書店 ※道行
「陣屋」の熊谷と「妹背山」の大判事 お三輪・八重垣姫	芸談	加賀山直三	《2》松緑 《7》梅幸	八人の歌舞伎役者		昭和34年10月 青蛙房
両花道 名作鑑賞席 吉野川一妹背山婦女庭訓	解説 芸談演出	戸部銀作 加賀山直三	《6》歌右衛門、芝雀＝ 《4》時蔵、幸四郎＝《1》 白鸚	演劇界	昭和35・2	演劇出版社
時代物の基準 〔昭和35・1歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	大判事（幸四郎＝《1》白 鸚）定高（《6》歌右衛門） 久我之助（芝雀＝《4》時 蔵）			
幕間随想 初めての定高	芸談		《6》歌右衛門	幕間	昭和35・2	和敬書店
初春大歌舞伎 〔昭和35・1歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	大判事（幸四郎＝《1》白 鸚）定高（《6》歌右衛門） 久我之助（芝雀＝《4》時 蔵）雛鳥（訥升＝《9》宗十 郎）			
幕間随想 大判事への驚き	芸談		幸四郎＝《1》白鸚			※昭和35・1歌舞伎座

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
時蔵襲名芝居 〔昭和35・4歌舞伎座〕	劇評	三宅三郎	お三輪（《4》時蔵）求女 （《6》歌右衛門）橘姫（我 童＝《14》仁左衛門）入鹿 （《8》中車）鱧七（幸四郎 ＝《1》白鬚）	幕間	昭和35・5	和敬書店 ※御殿
幕間随想 顔見世での三役	芸談		延二郎＝《3》延若	幕間	昭和36・1	和敬書店 ※昭和35・12京都 ※御殿
さすが顔見世の楽しさ 〔昭和35・12南座〕	劇評	桂田重治	お三輪（《4》時蔵）求女 （又一郎）鱧七（延二郎＝ 《3》延若）			
楽屋随想 難役のお三輪	芸談	松井敏明	《7》門之助	演劇界	昭和37・10	演劇出版社 ※昭和37・9東横ホール
楽屋随想 鱧七と菅丞相			《3》権十郎			
歪曲された「妹背山」復活 〔昭和37・9東横ホール〕	劇評	藤田洋				※武智演出への批判
復活作品記録と鑑賞Ⅰ 〈妹背山婦女庭訓〉 「蝦夷館」と「入鹿誅戮」	見たまま	堂本正樹	蝦夷・鱧七（《3》権十郎） めどの方（《6》菊蔵）入 鹿・淡海（団子＝《2》猿 翁）お三輪（《7》門之助） 橘姫（由次郎＝《6》田之 助）豆腐貫（《9》八百蔵）			
団十郎の眼 〔昭和37・10大阪新歌舞伎座〕	劇評	沼艸雨	淡海（又一郎）お三輪 （《6》歌右衛門）入鹿 （《17》羽左衛門）鱧七 （猿之助＝《1》猿翁）	演劇界	昭和37・11	演劇出版社
歌舞伎狂言鑑賞ガイドⅢ 妹背山御殿	鑑賞	松井敏明		演劇界	昭和39・3	演劇出版社
妹背山婦女庭訓 一その方法をめぐる断片的考察一	研究	高田衛		近世演劇の思想と伝統 一時代浄瑠璃の研究一		昭和41年1月 東京都立大学伝統文化の会
諒解・あるいは諦観の悲劇 一「妹背山」と「ロミオ」の本質的相違から 見たる一	研究	河竹登志夫		比較文学誌	3	昭和41年6月 早稲田大学比較文学研究室 ※「比較演劇学」（昭和42・ 12南窓社）に所収
先代三津五郎のこと	随想	北條誠	《3》左団次	市川左団次芸談きき書		昭和44年10月 松竹本社演劇部 ※《9》団十郎のお三輪。短 文
起死回生の希いをこめて お三輪と鱧七	評論 随想	諏訪春雄 浜村米蔵	《6》菊五郎、《1》吉右衛 門、《7》宗十郎	演劇界	昭和44・6	演劇出版社
「妹背山」のふるさとをたずねて	古跡	牧村史陽				
文楽の「妹背山」	評論	山田庄一				

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
お三輪のいじめられかた 〔昭和44・6国立劇場〕	劇評	戸板康二	お三輪（《6》歌右衛門）求女（《3》左団次）橘姫（《7》芝翫）鱧七（《2》鷹治郎）	演劇界	昭和44・7	演劇出版社 ※「戸板康二劇評集」（平成3・6演劇出版社）に所収
私の役づくり 妹背山婦女庭訓	芸談	土岐迪子	お三輪（《7》梅幸）求女（《17》羽左衛門）入鹿（《8》三津五郎）橘姫（精四郎＝《2》藤十郎）鱧七（《2》松緑）	演劇界	昭和44・6	演劇出版社
近松半二の舞台性 妹背山の説話世界 一獣婚と生贄の思想一	研究	小笠原恭子 三隅治雄		季刊雑誌歌舞伎	18	昭和47年10月 松竹演劇部
私の古典鑑賞 山の段	評論演出	渡辺保		演劇界	昭和48・2	演劇出版社 ※「歌舞伎という宇宙」（平成3・4筑摩書房）に「男の倫理女の倫理」として所収
「妹背山婦女庭訓」を廻って	研究	岡田美穂・松井今朝子・細井紀子		わせだかぶき	24	昭和48年10月 早稲田大学歌舞伎研究会
「妹背山婦女庭訓」 初段成立考	研究	御子柴市蔵		神戸山手女子短期大学紀要	16	昭和48年12月 神戸山手女子短期大学
私の古典鑑賞 「妹背山」の御殿	評論演出	渡辺保		演劇界	昭和49・2	演劇出版社 ※「歌舞伎という宇宙」（平成3・4筑摩書房）に「バロック風精神の秩序」として所収
蘇我入鹿一近松半二他 「十三鐘絹懸柳妹背山婦女庭訓」	研究	久保田淳		国文学	増刊	昭和49年3月 学燈社
歌舞伎における王朝ものの背景 一その史実との関連一	解説	浦山政雄		演劇界	昭和49・4	演劇出版社
私の役づくり 妹背山婦女庭訓	芸談	土岐迪子	定高（《6》歌右衛門）お雛（《7》芝翫）大判事（幸四郎（《1》白鸚）芝六・入鹿（《2》鷹治郎）久我之助（福助＝《4》梅玉）雛鳥（《5》松江＝《2》魁春）淡海（《6》田之助）	演劇界	昭和49・5	演劇出版社
「近江源氏先陣館」と「妹背山婦女庭訓」	研究	藤野義雄		演劇	1	昭和50年10月 御園座
妹背山お三輪の実説	考証	荒川秀俊		江戸の実話2		昭和51年5月 桃源社
浄瑠璃作者近松半二一浄瑠璃・歌舞伎の接点 における一	研究	横山正		芸能史研究	58	昭和52年7月 芸能史研究会 ※「六」の中で、三段目の一部を丸本と歌舞伎台帳で対比。

題名	種目	執筆著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
歌舞伎狂言の鑑賞 妹背山婦女庭訓御殿	鑑賞演出	藤井康雄		演劇界	昭和52・11	演劇出版社
「妹背山婦女庭訓」小考 一四段目（特にお三輪）について	研究	御子柴市蔵		山手国文論攷		昭和53年3月 神戸山手女子短期大学国文学科
妹背山婦女庭訓	鑑賞	渡辺保		演劇界 「歌舞伎名作案内1」	昭和54・6別冊	演劇出版社
いじめられ役のお三輪	芸談	《7》梅幸		梅と菊		昭和54年10月 日本経済新聞社
近松半二の作劇技巧	研究	藤野義雄		近松と最盛期の浄瑠璃		昭和55年4月 桜楓社
シーボルトと「妹背山」	史実	中村哲郎		演劇界	昭和53・1	演劇出版社 ※「西洋人の歌舞伎発見」 （昭和57・4劇書房）に所収
義太夫時代物名作十二選② 妹背山婦女庭訓	鑑賞演出	上総英郎		演劇界	昭和58・2	演劇出版社
オペラにまごう歴史ロマン「妹背山」	鑑賞	落合清彦		歌舞伎の芸		昭和58年10月 東京書籍
蛇頭蛇尾の「妹背山」 〔昭和58・11国立劇場〕	劇評	堂本正樹	お三輪（《5》玉三郎） 鑿七・求女（海老蔵＝《12》団十郎） 橘姫（芝雀＝《5》雀右衛門） 豆腐買（《5》富十郎）	演劇界	昭和58・10	演劇出版社
大王神話の近世的再演と「生贄」幻想—「妹背山婦女庭訓」	研究	森山重雄		浄瑠璃の小宇宙		昭和58年11月 三一書房
三演目が両花道 〔昭和59・1歌舞伎座〕	劇評	如月青子	お三輪（《7》芝翫） 橘姫（《5》松江＝《2》魁春） 求女（福助＝《4》梅玉）	演劇界	昭和59・2	演劇出版社
妹背山婦女庭訓	梗概解説	灰田由記子		浄瑠璃作品要説〈3〉 近松半二篇		昭和59年3月 国立劇場
「妹背山婦女庭訓」試論 一山の段の解釈—	研究	梅津美智		叙説	11	昭和60年10月 奈良女子大学文学部国語国文学研究室
続・”語りもの”文芸の伝承要素—妹背山婦女庭訓—の民俗	研究	乗岡憲正		大谷女子大学紀要	第20号第2輯	昭和61年1月 大谷女子大学紀要編集委員会 岩波書店
「妹背山婦女庭訓」成立前後—「芝六住家」戯曲構造論を中心に—	研究	内山美樹子		文学	昭和61・6	
中途半端な上演は一考を 〔昭和61・12歌舞伎座〕	劇評	志野葉太郎	お三輪（勘九郎＝《18》勘三郎） 求女（《5》八十助＝《10》三津五郎） 金輪（《4》左団次） 豆腐買（彦三郎＝《1》樂善）	演劇界	昭和62・1	演劇出版社 ※鑿七上使抜きの御殿
お三輪の成立 —歌舞伎と浄瑠璃の交流	研究	河合眞澄		文学	56	昭和63年8月 岩波書店

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
諒解と諦観の悲劇	研究	河竹登志夫		歌舞伎美論		昭和64年1月 東京大学出版会 ※「比較文学年誌」創刊号 (昭和41年、早稲田大学比較 文学研究室)に、「諒解・あ るいは諦観の悲劇」として初 出
日本民俗研究体系9	研究	大久間喜一郎				平成1年3月 日本民俗研究大系編集委員会 編
「山の段」再説	研究	梅津美智		ことばとことのは	7	平成2年11月 和泉出版
鷹治郎の花と艶 〔平成3・2中座〕	劇評	亀井五郎	お三輪(浩太郎=《3》扇 雀) 鱧七(智太郎=《4》鷹 治郎)	演劇界	平成3・1	演劇出版社 ※御殿
桜の林の大島台 〔平成3・4歌舞伎座〕	劇評	如月青子	大判事(《2》吉右衛門) 久 我之助(《3》鷹治郎= 《4》藤十郎) 雛鳥(《5》 松江=《2》魁春) 定高 (《6》歌右衛門)	演劇界	平成3・5	演劇出版社
妹背山婦女庭訓	鑑賞	上総英郎		時代浄瑠璃の世界		平成3年9月 朝文社
「芝六住家の段」の解釈	研究	梅津美智		ことばとことのは	8	平成3年12月 和泉書院
妹背山婦女庭訓 三笠山御殿	鑑賞	石橋健一郎		歌舞伎見どころ聞きどころ		平成4年5月 淡交社 ※平成1・7「演劇界」に初出
妹背山婦女庭訓 吉野川						
みな懸命な舞台 〔平成4・11新橋演舞場〕	劇評	如月青子	お三輪(《9》福助) 鱧七 (《12》団十郎) 橋姫(浩 太郎=《3》扇雀) 求女(勘 九郎=《18》勘三郎)	演劇界	平成4・12	演劇出版社
かぶき名作辞典 妹背山婦女庭訓	解説	松井俊諭		国文学	増刊	平成4年5月 学燈社
動物神の力 近松半二他「妹背山婦女庭訓」	評論	河合眞澄		国文学	平成4・8	学燈社
初役揃いの「吉野川」 〔平成5・6南座〕	劇評	亀井五郎	大判事(《12》団十郎) 久 我之助(《5》時蔵) 雛鳥 (智太郎=《4》鷹治郎) 定 高(《3》鷹治郎=《4》藤 十郎)	演劇界	平成5・7	演劇出版社
四段目のお三輪について	研究	梅津美智		ことばとことのは	10	平成5年12月 和泉書院

題名	種目	執筆者・著者	話者・演者	誌名・書名	号数	備考
「御殿」を中心に 〔平成6・6歌舞伎座〕	劇評	如月青子	お三輪（《5》時蔵）求女 （《2》藤十郎）入鹿（彦三 郎＝《1》樂善）鱧七 （《4》左団次）	演劇界	平成6・7	演劇出版社
4段目・橘姫について——「妹背山婦女庭訓」 試論	研究	梅津美智		芸能史研究	126	平成6年7月 芸能史研究会
妹背山婦女庭訓 吉野川 三笠山御殿	演出	藤野義雄		名作歌舞伎の舞台鑑賞		平成6年6月 御園座演劇図書館
花びら二片——妹背山婦女庭訓・吉野川 恋の苧環——妹背山婦女庭訓・御殿	鑑賞	服部幸雄		新潮選書 歌舞伎歳時記		平成7年7月 新潮社
『妹背山婦女庭訓』「三笠山御殿の場」の型 の問題点	研究	伊藤博明		歌舞伎：研究と批評	20	平成9年12月 歌舞伎学会編
評論『妹背山婦女庭訓』三段目 山の段の型の 問題点	研究	二川清		歌舞伎：研究と批評	26	平成12年12月 歌舞伎学会編
雛鳥 妹背山婦女庭訓——ジュリエットを鏡と して	研究	冬木ひろみ		国文学	52（1）通号745	平成19年1月 学燈社
歌舞伎衣裳の変遷とその視覚的な工夫につい て——『妹背山婦女庭訓』四段目お三輪を例 として	研究	加茂瑞穂		歌舞伎：研究と批評	46	平成23年5月 歌舞伎学会編
妹背山婦女庭訓：江戸中期の天皇観と公家文化	研究	東晴美		武蔵野大学日本文学研究所 紀要	8	令和2年2月 武蔵野大学文学部日本文学研 究所編